

# 令和8年度名張市総合防災訓練の考え方

令和8年5月15日  
総務企画委員会協議会資料②  
危機管理室

## 想定する災害

- 1 南海トラフ地震  
(震度6弱想定)
- 2 激甚化・頻繁化する豪雨災害

## 防災訓練の目的

- ・市全体の防災意識の高揚
- ・防災諸行動の習熟

## 令和7年度名張市総合防災訓練

時期：令和7年11月15日（土）

出水期等を考慮して、例年11月第3土曜日の午前中を選定  
小中学校は訓練当日を授業日として、地域と小中学校との連携を促進

## 訓練内容（風水害を対象）

- 〈市災害対策本部による訓練〉
  - 1 市災害対策本部設置・運営訓練
  - 2 消防本部との合同訓練等
- 〈その他市各所管における訓練〉
  - 1 多数傷病者への対応訓練
  - 2 応急給水訓練
  - 3 応急危険度判定訓練
- 〈各地域づくり組織における訓練〉
  - 1 安否確認及び報告訓練
  - 2 地域対策本部の設置運営訓練
  - 3 消防団、小中学校との連携
  - 4 自衛隊・事業者の訓練参加

## 令和7年度名張市総合防災訓練の総括

### 訓練の成果と次年度への反映

- 1 市役所内の災害対策本部運営の習熟  
→・更に機能的なレイアウトへの改善等  
・災害医療救護体制の見直しの深化  
(令和7年度策定マニュアルの検証)
- 2 業務用アプリによる情報共有・DX推進  
→職員操作訓練、実災害を含め更に習熟
- 3 風水害におけるタイムラインに基づく行動の理解（風水害・地震の隔年実施）  
→南海トラフ地震に係る各種活動の理解
- 4 地域・小中学校・消防団の協働が定着  
地域独自の防災に係る取組の広がり  
→取組の継続、防災キャンプ等の拡充

## 能登半島地震・奥能登豪雨から得た教訓

- 1 基本的な訓練の継続による犠牲者の抑制
- 2 孤立化地域の発生への対応の必要性
- 3 災害関連死の増加 要配慮者（高齢者、子ども等）への対応の必要性

### 対応

- ・基本的訓練継続の有用性を再確認
- ・孤立想定地域への事前備蓄の推進
- ・避難所生活改善用備品の調達・配備
- ・要配慮者への対策整備

## 令和8年度名張市総合防災訓練

時期：令和8年11月21日（土）

## 訓練内容（南海トラフ地震を対象）

- 令和7年度の訓練に準じた内容  
〈市災害対策本部による訓練〉
  - 1 市災害対策本部設置・運営訓練  
(災害救護対策本部の活動含む)
  - 2 消防本部との合同訓練
- 〈その他市各所管における訓練〉  
〈各地域づくり組織における訓練〉
  - 1 安否確認訓練等の基本的訓練の継続
  - 2 防災行政無線、特設公衆電話操作訓練
  - 3 避難所生活環境改善用備品の活用

## 訓練計画策定時の着意事項

- 1 災害対策本部の運営への習熟
- 2 業務用アプリ活用等、防災DX推進
- 3 地域・消防団・学校の連携強化継続
- 4 避難所生活環境の改善、多様な避難者への対応、子どもの居場所の確保
- 5 孤立想定地域への対応  
通信訓練、防災ヘリ、ドローンの活用
- 6 年度を通じた訓練・研修会等の実施  
(福祉避難所開設運営訓練等)